

がん教育の現状とこれから～理想のがん教育を目指して

京都府医大150周年がん教育京都モデルを考える会 より

概要 (出展者ID:2831)



がん教育は、平成24年がん対策推進基本計画にて実施が求められたが、多様性や専門性が高く、教材や講師の確保に問題があった。これは、初等教育の現場で「多様で専門性が高いこと」を教えはじめるときの様々困難を我々に提示した。ここでは、これまで対話がなかったと思われる小学校などの教育現場と、大学など専門性を持つ人々がどのように協力しあえるのかを話し合い、解決への糸口へとつなぎたい。教育における常識を如何に超え、未来の社会へと広げ、つなげていかに来場者とともに考えたい。

今こそ対話のとき



新型コロナ感染症は、我々にあらためて疾病予防の大切さを教えた。そして、日常会話に疾患予防の話題がしばしば登場する時代が来た。コロナ禍では、個人々々では難しい行動変容も、社会全体で議論し、大きな効果を上げる形で実践できることがわかった。今なら、人々の意識と行動を変え、死亡原因1位のがんを大きく予防して未来が実現できるかもしれない。そのために、今こそ、科学の持つ役割を明確にし、安全安心で豊かな社会を作るための「対話」が必要である。

プログラム

(11月4日(木) 15時より90分web会議、交流会30分あり)
(敬称略)

- 1) イントロダクション (10分) : 司会者 (武藤倫弘 (京都府立医科大学) 宇野毅明 (国立情報学研究所))
- 2) 学校におけるがん教育 (10分) : 馬場久美子 (文部科学省 初等中等教育局)
- 3) 京都府におけるがん教育活動の現状 (10分) : 玉井菜実 (京都府健康福祉部健康対策課)
- 4) 外部講師 (がん体験者) を活用したがん教育 (10分) : 照屋典子 (琉球大学医学部保健学科)
- 5) 大学人から見たがんの子供教育 (10分) : 横山郁子 (神戸薬科大学 総合教育研究センター)
- 6) 親の視点や一般の立場からのがん教育 (10分) : 中曽根陽子 (有限会社 マザークエスト)
- 7) 総合討論 (30分) : 先ずは司会が登壇者に質問。次にweb参加者に登壇者が質問など
- 8) **企画終了後に設ける30分の交流時間** (出入り自由) ご登壇: 溝上悠介 (厚生労働省 健康局) 高橋昌也 (厚生労働省 健康局)

事前登録のURL

https://form.jst.go.jp/enquetes/agora2021_04-b15

■ 来場者の事前登録 ~プログラムへの招待までの流れ



Zoom
開催